



# 無所属 品川区議会議員 西本たか子通信No.24 change!

発行元 西本貴子事務所

〒140-0014 品川区大井7-2-13 TEL/FAX 03-5742-1146  
<http://www.nishimototakako.com/> E-Mail : ta-ko\_ns@d6.dion.ne.jp

“ありがとう”的気持ちで品川区の街に優しさと夢を  
一人一人が輝く街をめざします！

## 第二回定例会 本会議 一般質問をしました。

概要(抜粋)をお知らせします。詳細は区議会HPに議事録がアップされます。

### 長期計画について

○西本 平成21年に策定された基本構想は、20年間を見据え策定された。時代の流れを意識した計画であるべきある。見直し時期も遅れている。

基本構想を含め長計の見直し時期と検証方法および実施計画のずれ、実績についての理由を問う。さらに、国の総合戦略との整合性と実態、品川区としての考え方。

### ○区長

平成29年度より、人口推計や各種アンケートを実施し、学識経験者を交えた庁内での検証および課題の抽出を行い、策定委員会に示した。

近年、人口構造、社会情勢の変化が著しく、新たな課題も多いことから、施策や方向性の検討に十分な期間を取った。令和2年度を新計画の始期とする。

国の総合戦略と整合性を図り、商店街の国際化への対応や品川区民芸術祭の開催、町会、自治会の活動活性化の推進など、理念に基づく施策を数多く推進している。

### シンクタンク・コンサルティング企業の活用について

○西本 これらの企業の活用の必要は認めるものの、政策に反映するためには人材育成が必要だ。委託件数と金額の推移、委託するときの要件、指針については、活用できる職員の育成については。

### ○区長

委託件数と金額は、平成28年度は46件2億3,000万円、29年度53件3億8,000万円、30年度57件4億2,000万円。委託指針はないが政策に有効であれば活用している。

人材育成は研修、職場でのOJTなど、取り組んでいる

### 住民サービスにおけるPPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)とAI化について

○西本 住民サービスの質的向上のため、ITC「情報通信技術」やAI「人工知能」の活用が必要不可欠であり、PPPと組み合わせることで行政組織のあり方や働き方改革にもつながる重要な視点だ。AIを活用できる経営体質と行政組織の再構築、その時期について聞く

### ○区長

AIを活用したチャットボットや会議の議事録自動作成システムを導入し、これらの効果検証を行うとともに、今後のAIの活用領域の検討を行う予定だがその能力を最大限に活用できる時期はまだ先であると認識している。

PPPの視点も含め、AIを有効かつ安全に利用できるよう、組織のあり方等についても研究していく。

### 指定管理者制度の現状と今後について

○西本 指定管理者制度において新規事業者がなぜ少ないので、その理由と近年の新規事業者の希望の状況と実績は。新たなニーズに柔軟に対応するため新規企業の情報収集と採用は。

### ○区長

新規事業者の状況は、過去3年間で3施設。新規参入業者が極端に少ないという評価はしていない。継続性から、同一事業者が管理することも十分にあり得る。

情報収集を行い、積極的な活用を検討していく。

### 若者政策について

#### ひきこもり対策について

○西本 品川区の高校進学率はほぼ100%であるが、退学してしまう生徒が多く存在している。新たな高校生活が送れる生徒もいるがひきこもり状態になってしまう状況もある。実態把握をしているか。

### ○子ども未来部長

高校を退学した生徒数は把握していない。

### 退学した生徒に対する支援策について

○西本 問題行動や不登校の生徒に対して十分なサポートをしているとは感じられないケースが多々見受けられる。貸付型奨学金の返還免除制度の拡大を求める。

### ○子ども未来部長

東京都では、中退者支援として、青少年リストアプレイス事業を行っている。高校中退者に対する区としての支援は、今後検討していく。

### 公立保育園の民営化について

○西本 運営費が一般財源からの支出を理由に、直営の公立保育園の民営化を打ち出した。しかも、運営業務委託から民設民営化にする方針。区有財産である公立保育園を民間に譲渡するのは、あまりに安易ではないか。行政ニーズも変化する可能性もある。全体を見据え総合的に検討すべき。

公立保育園の意義、果たす役割は何か、今後の動向は。

### ○子ども未来部長

民営化は、今後の保育ニーズや保育のあり方等を総合的に検討し、区立保育園の一部で進めていく。区立保育園・幼稚園は、保育、教育の質の向上を進めるとともに、品川区の就学前乳幼児教育の中核であり、今後も適切な運営に努めていく。

## 児童相談所について

○西本品川区の虐待に関する件数、児童相談所に送致した件数、危険度の高いケース、警察との連携をしたケースがあるのかなど、実態と近年の動向は。

法改正により特別区にも設置が可能になった。品川区は2020年に開設が予定されている。品川区独自の児童相談所を設置する目的と経緯、東京都と交渉の予定は。

機能と予算は。最大の課題である児童福祉司の確保は。

地域で活動している団体の連携が可能だ。水面下で活動している「チャイルドライン」の活動は大変評価をしている。連携を図っては。他自治体との連携及び警察との連携は重要だ。全件の情報共有化を。

## ○子ども未来部長

児童虐待に係る相談件は増加傾向、昨年度は平成29年度に比べ40件増加し、325件、危険度が高いと判断し、児童相談所に送致したのは3件、警察との連携は10件。

品川区では、区内の全ての子どもの健やかな育ちを守る体制を強化するため、その中核となる児童相談所を設置することにした。東京都や他区との連携などさまざまな協議が必要、令和4年の開設に向けて着実に準備を進めていく。

法令、児童相談所運営指針で人員が配置され、運営する必要があり、独自機能については今後検討していく。予算規模は、約12億円程度。必要となる職員確保・人材育成は品川区児童相談所設置基本方針に基づき、十分に準備をしていく。他自治体や警察との連携、情報共有は情報のそごや虐待に係る認識の不一致により、要保護児童の利益が損なわれることのないよう、今後も適宜適切に進めていく。

## 幼保一体施設について

○西本時代変化や保護者のニーズの多様化から、幼保一体施設の課題を検証し、次世代における就学前教育の再構築が必要になってきた。

幼保一体施設の当初の目的、目標から乖離してきているのではないか、現状は。

幼保一体施設のふりすぐ一の西五反田の運営主体が指定管理者制度によるNPOの運営から社会福祉法人化施設として運営をすることになっている。その理由と区の関与は。

今後の計画と園児達に影響が無いように配慮を。

## ○子ども未来部長

現在の幼保一体施設は、保育、教育の連携が円滑に行われ、質の高いサービスの提供が実現でき、今年度4月に1園増やした。一方、幼稚園の在園児数については減少傾向。長時間保育等を希望する保護者が増加。今年度改定する「子ども・子育て支援事業計画」で保護者ニーズの分析等していく。

ふりすぐ一の西五反田は、幼保連携型認定こども園としての必要な環境の整備等を進め、数年後の移行を目指す。民間における幼保連携型認定こども園は、社会福祉法人、学校法人に限られ、NPOでは設置できない。移行に当たっては、子どもの利益を最大限に考慮していく。



## 地域福祉計画における若者支援について

○西本中高生の居場所として児童センターの役割は大きい、取り組み成果と今後の展開は。

子ども若者応援フリースペースを開設した。利用状況および伴走型支援の具体的な取り組みと実績、今後の課題は。

活用できない方々へのアプローチは。

## ○子ども未来部長

児童センターでは、学校は不登校であっても、センターには訪れている子があり、彼らの居場所として重要な役割を果たしている。児童指導員が相談相手になったり、関係機関と調整している。今後もさらに子どものよりどころとして支援を進めていく。

子ども若者応援フリースペースに、平成30年度は181名が登録し、延べ2,360名の利用があった。

今後、18歳以上を対象としたワークショップなど、社会体験プログラムにも取り組んでいく。今年度から品川区社会福祉協議会と連携した支援プログラムを実施する。

○西本地域福祉計画のキーは、「地域」「つながる」「理解」「共生」にある。それを具体的に進めていくために兵庫県多可町で取り組んでいる「一日ひと褒め条例」を導入は。

ひきこもり等の状態のお子さんを支える家族の心労はばかり知れない過酷な状況。実態把握と家族支援に相談体制の強化を検討しては。

## ○子ども未来部長

地域福祉を推進するために、「おたがいさま運動」を実施し、区民向けの研修や区立学校の児童を対象にした学習会を行っている。充実を図る。

保健センターにおいて、精神科医師による専門医相談や、保健師による相談・訪問支援、ひきこもりの知識の普及啓発と対応能力の向上をめざすための「ひきこもり家族支援教室」などを実施している。メンタルチームサポート事業を開始し、多職種による包括的な支援も開始した。今後もご本人やご家族に寄り添った支援に努めていく。

# 西本たか子

## プロフィール

- 1960年 11月 福島県いわき市生まれ
- 1981年 国立福島工業高等専門学校（福島高専）卒業
- 1981年 東京農工大学 工業化学専攻3年へ編入学
- 1983年 東京農工大学 工業化学専攻卒業 東京工業大学 生命科学科 研究生
- 1984年～1985年 東海医理科工業株式会社
- 1985年～2003年 アマシャムバイオサイエンス株式会社
- 2003年 品川区議会議員 初当選
- 2007年 品川区議会議員 2期目当選
- 2011年 品川区議会議員 3期目当選
- 2015年 品川区議会議員 4期目当選
- 2018年9月 品川区長選挙出馬
- 2019年 品川区議会議員 5期目当選

## 【その他役職】

- ・保護司
- ・自衛官募集相談員 品川区副支部長
- ・福島県うつくしま福島浜通り会 副会長
- ・品川区父母の連絡会 顧問

区民・行政・議会・  
企業 それぞれの立  
場を尊重し、協働し  
あう品川区へ！



## 西本たか子の政治姿勢

あらゆる立場を  
理解し傾聴 政党にこだわらず、あらゆる立場の声をしつかり聞き区政に生かします。

正しい情報の伝達 しっかりと正しい情報を伝え共に  
考えていきます。

住民と行政との  
懸け橋 対立でなく支えあう関係、協働参画できるよう架け橋になります。

西本たか子は  
区民の幸せ  
応援団長

## 輝く街づくりのために



保護司として更生のお手伝い  
(社会を明るくする運動の街頭宣伝)



第一回目から東京マラソンの  
ボランティアに参加



父母連会長時代から20年間  
「ふれあい動物園」を開催